

令和2年第8回定例会一般質問通告事項

	<p>前田孝人議員（尾道未来クラブ）</p>	<p>質問方式：一括質問方式</p>
<p>12月</p>	<p>1 新型コロナウイルス感染症 今後の尾道市の対応は</p> <p>(1) 9月とくらべて状況が大きく悪化してきた現状にあつて、市民への安心・安全対策については県と同一歩調を取るだけなのか。また尾道市独自の施策はどうか</p> <p>(2) 経済対策としてこれまでの尾道市独自の拠出額はいくらか。また今後も余力はあるのか。また経済対策の独自追加施策を考えているのか</p> <p>(3) 市民への安全対策を担保するために、観光客やビジネスで訪れる人たちへホテルや飲食店、土産物店などでの検温等の安全確認対策は各事業者にどこまで求めて実施しているのか</p> <p>(4) 尾道市内でコロナ感染での入院対応を準備しているのは市民病院の7人であるが、全国的に家庭内クラスターが増えている。クラスターが発生したとき市内で対応することが可能なのか。また対応できる病院を増やすことは考えているのか</p> <p>(5) ワクチン接種が可能になるまでの間、9月の一般質問で提言した希望者にはPCR検査を実施することについての考えは。また市民病院に配置してある検査機器5台を活用してまず医療従事者にPCR検査をしてはどうか</p> <p>(6) 軽症者の隔離施設は尾道市に準備しているのか。また開放隔離療養施設策について県に提案してはどうか</p>	
<p>11日</p>	<p>2 デジタル技術を活用したまちづくり</p> <p>(1) 尾道市の目指すスマートシティとは。具体的にはどのようなものか</p> <p>(2) 電子化スタッフの構成はどう考えているのか。コンサルに丸投げするのではなく専門職を雇用し進めるべきである。また専門性を持つ官民学の合同電子化推進チームの編成を考えてはどうか</p> <p>(3) 国の支援を受けられるであろうビッグデータを活用した防災対策。特に急ぐ必要があると思うがどうか</p>	

12月	<p>3 「屋上屋を架す」千光寺公園頂上の展望台の建て替えは止めるべき</p> <p>(1) 最も高い頂の上にさらに高さ6～7m、長さ約60mの展望ブリッジを計画している。「屋上屋を架す」とはまさにこのことである。なぜ日本遺産の町おのみちのランドマークである千光寺山、公園に4億円ちかくもかけてこのような人工的なものが必要なのか。景色が見えないのであれば、邪魔する木々を計画的に刈り込んで低木仕立てにすれば頂上一帯が丸ごと展望台になるがどうか</p> <p>(2) 平成30年の豪雨災害により多くの工事が止まった。またこの度のコロナ感染症で不急の新規事業も先送りになった。このように多くの市民の要望に応えることができない状況の中で、また今後コロナ対策でどれほどの予算が必要になるか解らない状況の中で、3億7000万円もかけて今行わなければならない事業なのか。これこそ不急の事業である。千光寺公園頂上の展望台の建て替えは止めるべきだがどうか</p> <p>(3) 展望台の建て替えよりもまず先に公園そのものの在り方や将来の方向性、つまり千光寺山全体の構想を打ち出すことが先決である。まず全体構想があつての千光寺公園頂上一帯のリニューアル事業であるべきだがどうか</p>
11日	<p>4 尾道市民病院とみつぎ総合病院の統合と市民病院の建て替え</p> <p>(1) 人口14万人の尾道市が二つの市立病院の経営を続けていくことが可能なのか。今後の病院事業の生き残り策はどうか</p> <p>(2) 尾道市民病院とみつぎ総合病院を統合し非公務員型の地方独立行政法人（仮）尾道市病院機構として独立採算で運営を図るべきだがどうか</p> <p>(3) 両病院を経営統合し、市民病院を基幹病院としみつぎ総合病院をサブ病院としてそれぞれの強みや特色を生かした運営を行う。市民病院は3次救急医療機能（救急救命センター）を有する総合病院として、救急医療、急性期医療、高度先進医療を、みつぎ総合病院はみつぎ医療センターとして回復期リハビリテーション、慢性期医療等の入院施設に特化すべきだがどうか</p> <p>(4) 病院は他の建物と違って安全性を確保することが重要である。市民病院は築後37年が経過している。病院の耐用年数は39年であり、老朽化や耐震など安全性の確保のためにも建て替えが必要な時期がきている。市民病院は建て替えをすべきだがどうか。もちろん財務のバランスが重要であることは言うまでもない</p>